

- 国際ファッション専門職大学: ファッションクリエイション学科
- 2023年卒業生: 浜名悠
- 留学先: イギリス
- 大学名: Central Saint Martins
- コース名: MA Fashion Womenswear (修士号/大学院)

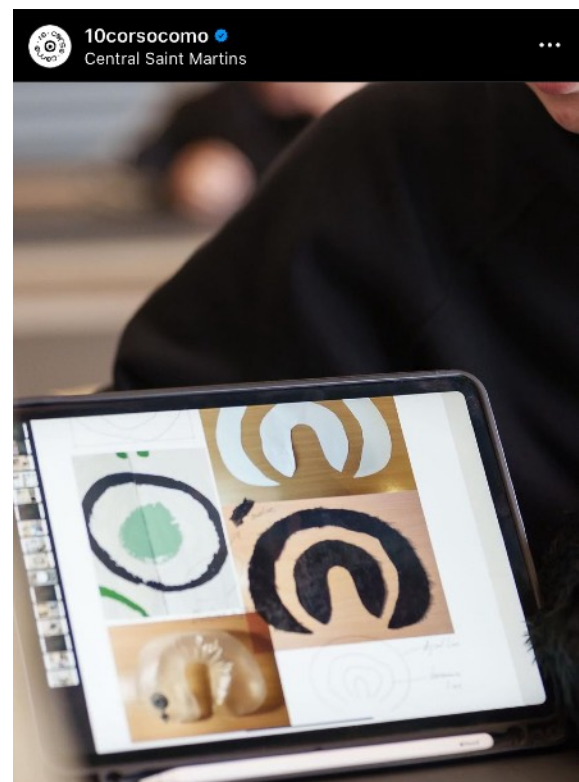
第6回目校費留学レポート目次

- チュートリアル
- 10•Corso•Como プロジェクト
- Canada Goose プロジェクト
- Pre-Collection

チュートリアル (10•Corso•Como)

今月は、10corso comoのチュートリアルとプレゼンテーションがありました。チュートリアルでは、自分が制作していたエアピロー、バッグのデザインプロセスとプロトタイプを見てもらいました。チューターからはあなたのデザインは理にかなっているけどexcitingではないという意見をいただきました。

また、あなた自身の世界が見えないということで、自分自身が相手企業に寄り添った考え方でデザインをしていることに気がついてしまいました。その上、このプロジェクトの最終地点は販売なので生産工程や消費者視点など自分のクリエイションには関係のない余計な想像が多かったと振り返って思いました。チュートリアルは、プレゼンテーションの2日前でしたが、一番良いデザインのものに、自身のストーリーテリングとブラッシュアップをして本番に臨みました。



チュートリアル風景

10・Corso・Como Presentation



プレゼンテーション用セッティング

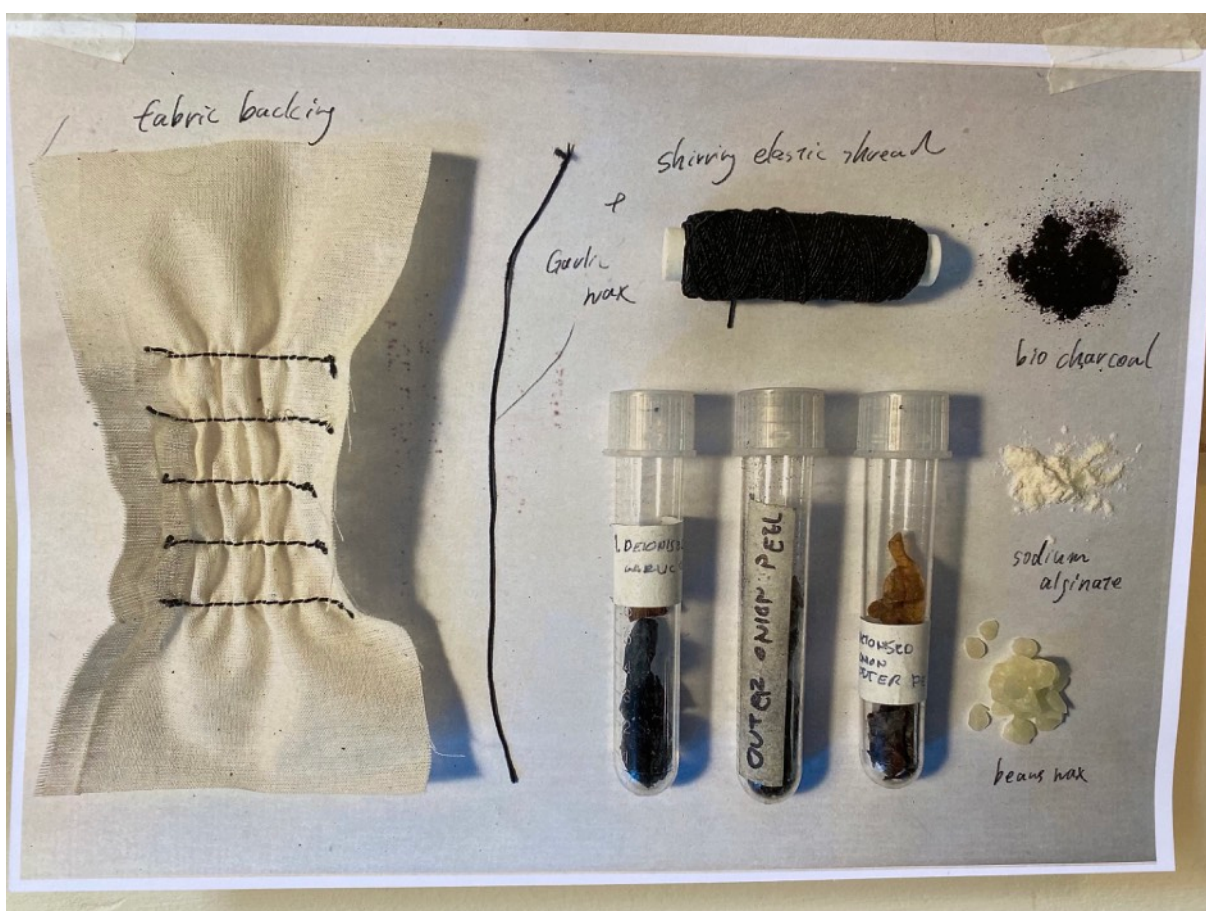
午前中は個々のエリアにプロダクトと、デザインプロセスを配置し、10・Corso・Comoの方々に観てもらいかたちでした。午後は、一人一人プロダクトのプレゼンテーションを行いました。自分は、一年前にショップへ訪れた時の思い出とそれに繋がるプロダクトのデザインプロセスを発表しました。最終的な結果は、残念ながらファイナリストまで進むことができませんでしたが、チューターの方々のアドバイスと同じコースの友人たちの作品から多くの刺激をもらうことができ、とても良い経験となりました。

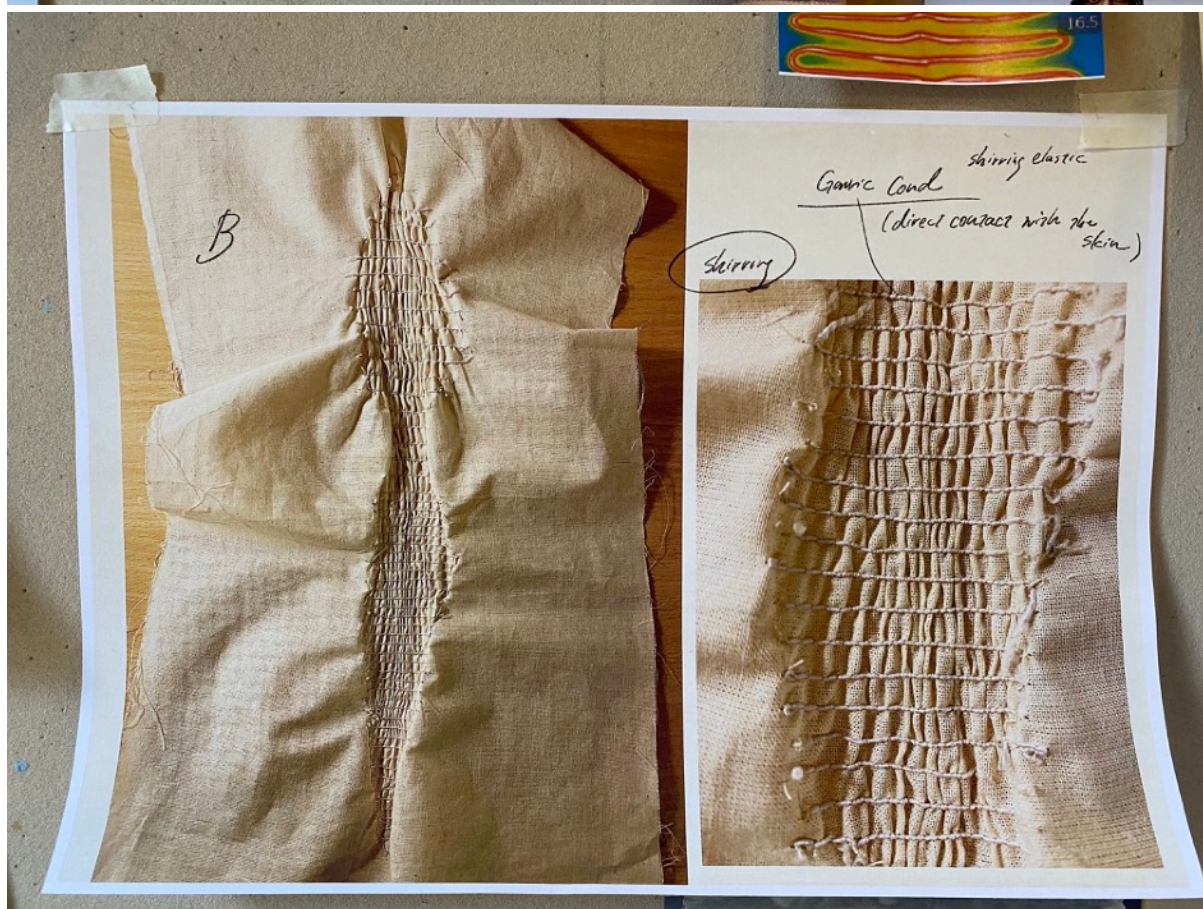
Canada Goose Project



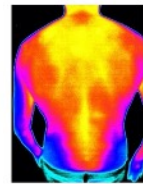
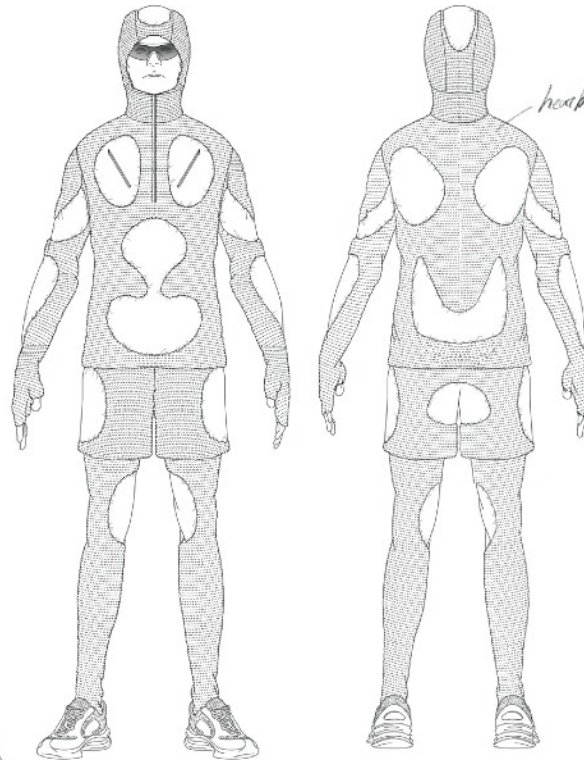
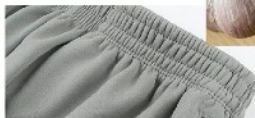
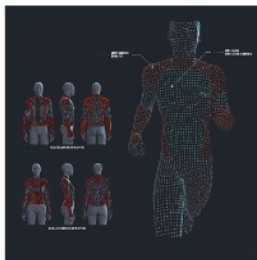
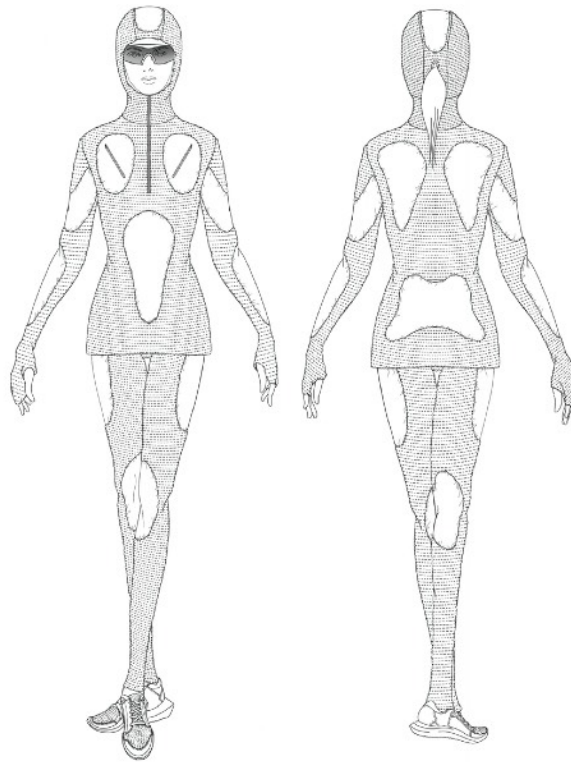
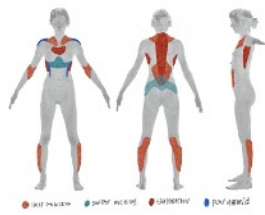


Canada Goose プロジェクト プロトタイプ

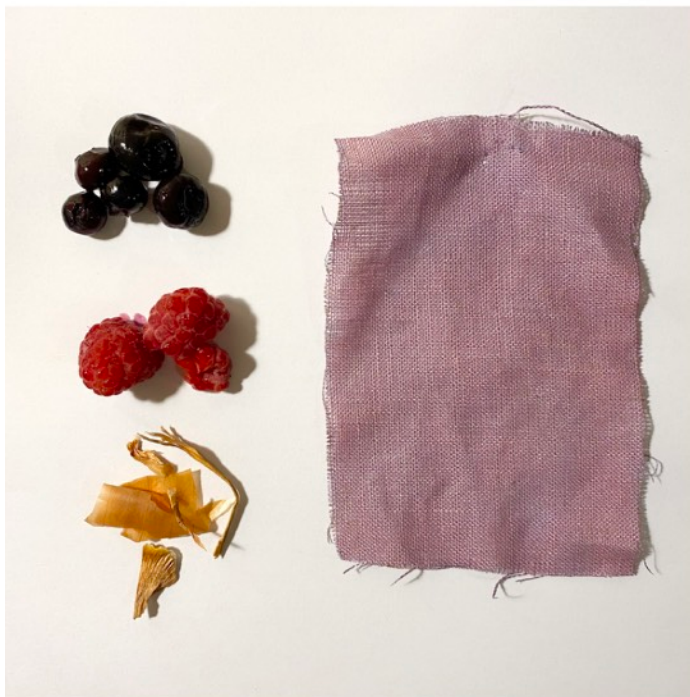




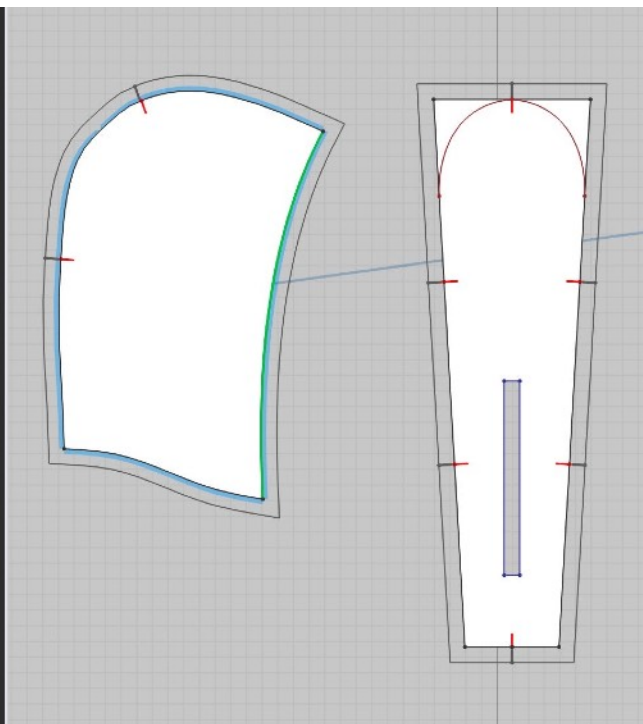




Vegetable Dyeing (Blueberry: 10% x Raspberry: 70% x Onion: 20%)

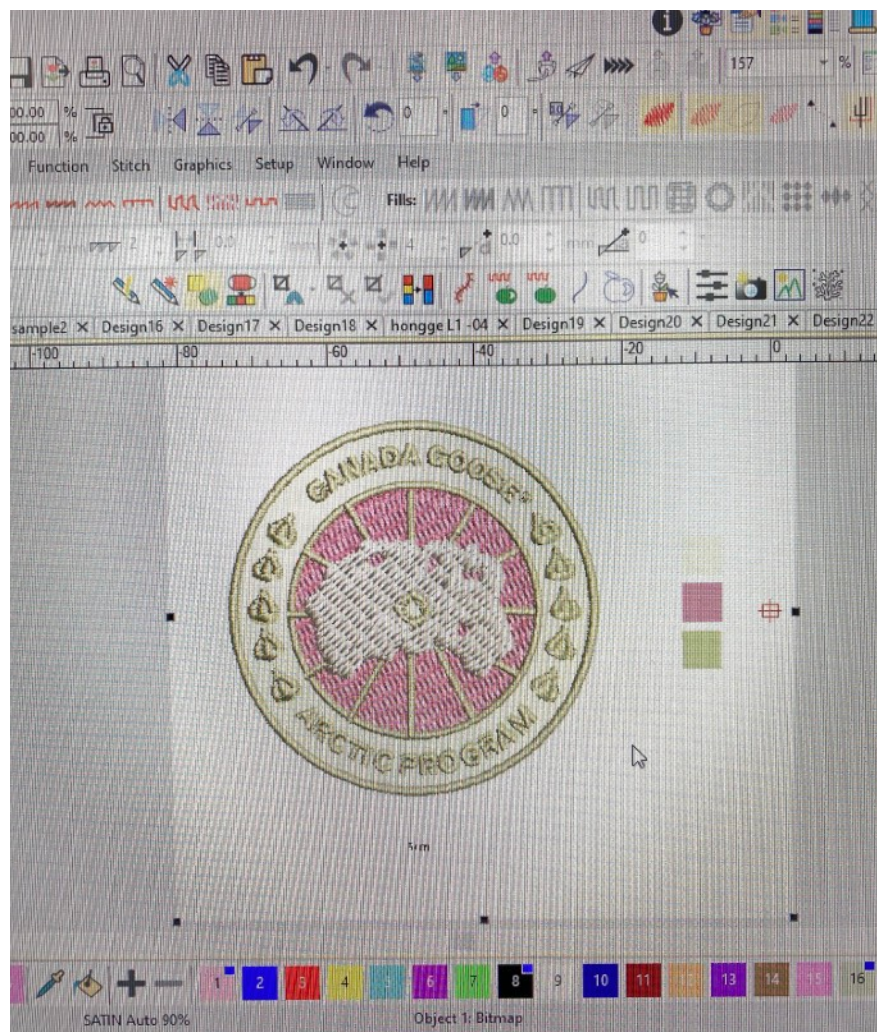
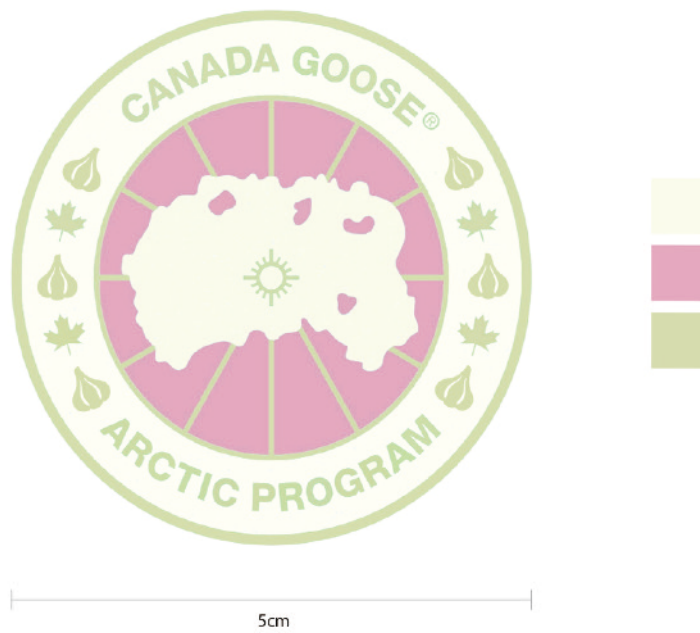


Canada Goose Project デザインプロセス



Canada Goose Project デザインプロセス







Canada Goose Project デザインプロセス





Canada Goose Projectプレゼンテーション用セッティング

今月はCanada Gooseのプレゼンテーションもえりました。先月に引き続き、チームメイトのMA Material Futureが開発した保温効果のあるガーリックワックスをベースに同じチームメイトとプロトタイプを制作しました。

ガーリックワックスの保温効果を効果的にするためにテキスタイル開発の実験を繰り返していました。結果、シャーリングのテクニックを使うことで、ガーリックでコーティングされて下糸のゴムが肌にダイレクトに当たりかつ、アクティブウェアとしての伸縮性を加えることができることを発見しました。

シャーリングはランダムな波状にかけることによってガーリックの皮のようなテクスチャに変化し、スポーツウェアとしての装飾性にもアプローチしました。

自分たちは、従来の化学繊維で作られたランニングウェアではなく、麻で作られたオーガニックなランニングウェアを提案することになりました。Material Futureがガーリックに着目した理由の中にフードウェイストとして破棄されることの問題がありましたが、自分たちは他の野菜にも着目し、染色方法は草木染めで行うことになりました。ガーリックのカラーパレットを参考に、オニオン、ラズベリー、ブルーベリー、ほうれん草、赤蕪など様々な野菜を調合して染色を行いました。カラーストップでは焼きミョウバンを加えました。またパターンは、チームメイトがclo3Dで作成し、人間の熱がより必要とされるスポットに合わせて切り替えられています。

Canada Gooseのロゴについては、学校内に刺繍機があるのでオリジナルのワッペンを制作しました。サイドのメープルのロゴが象徴的なロゴですが、自分たちのプロジェクトに置き換えてガーリックのグラフィックとカラーパレットに変えて制作しました。

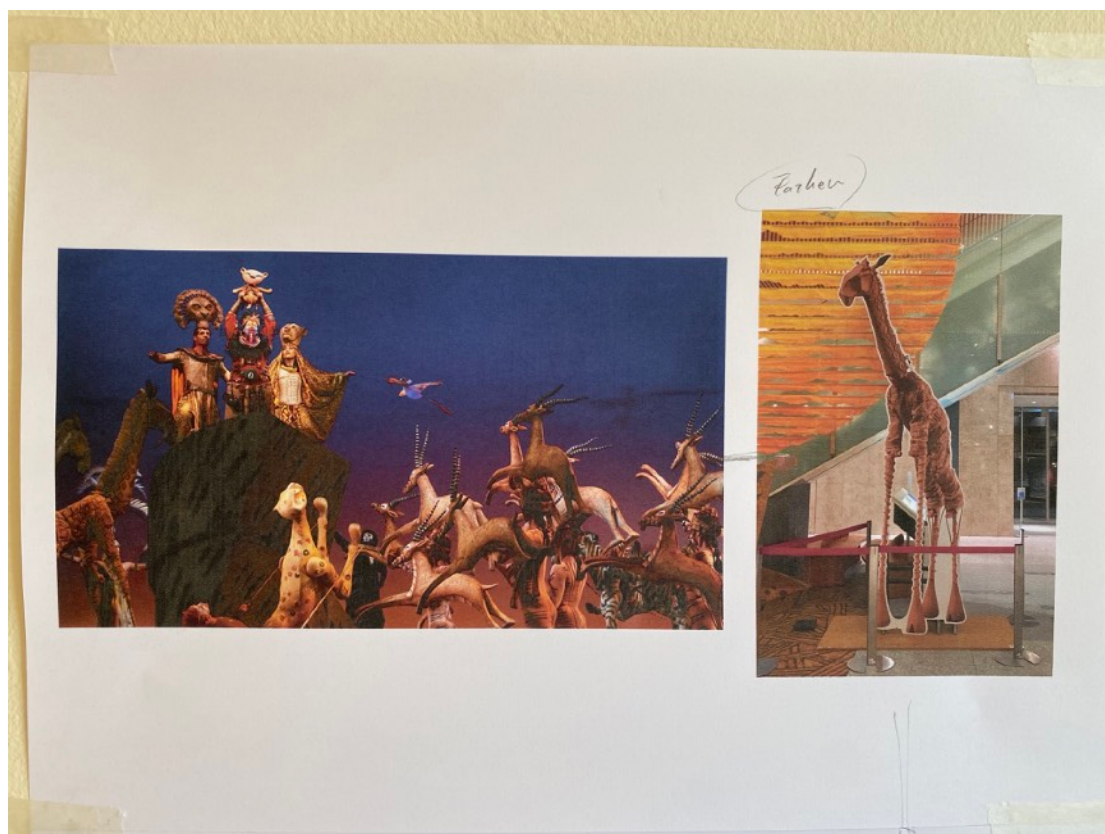
当日は、ファッションショー形式でプロトタイプを発表した後、それぞれのチームのプレゼンテーションというかたちでした。ファッションショーはプレゼンテーションの5日前に発表されたので、モデルの準備とスタイリング、シルエット調整など様々な工程が必要になりました。そしてスタイリング用にASICSのランニングウェアを購入しました。

プレゼンテーションでは、デスクに今までのデザインプロセスとサンプル、草木染めに使った染料、ガーリックの効果を示す資料を配置し発表しました。カナダグースからは誉めていただきましたが、大きな評価を得られることができなかったのもまだまだ課題は多いなと自分の中では感じました。



Canada Goose ファッションショー バックステージ

Pre-Collection

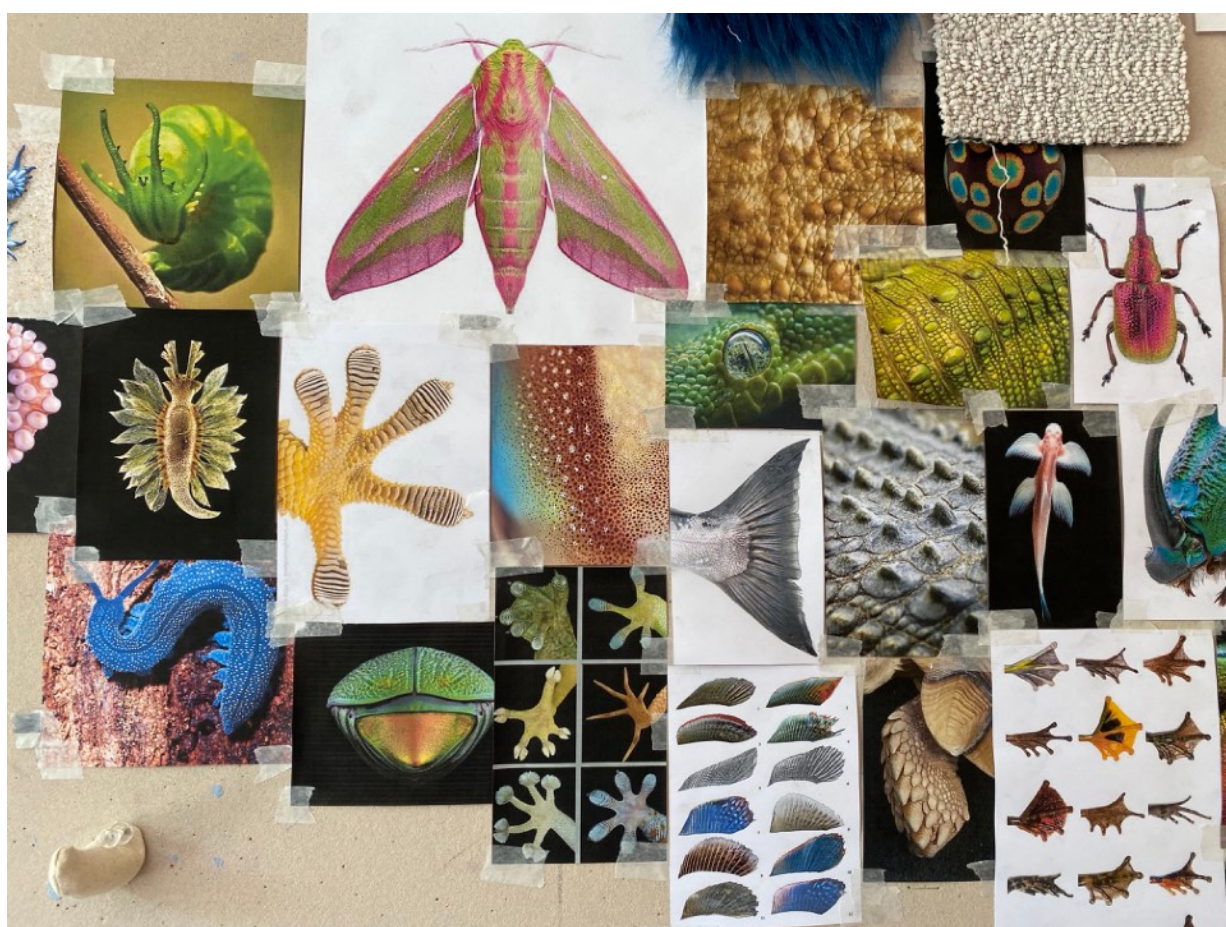


Pre-Collection デザインプロセス

二つの大きなプロジェクトが終わり、残るはPre-Collection と卒業コレクションになりました。前のプロジェクトの反省点を活かし、現在身体を動かしながらデザインを進めています。

自身のルーツとなる幼少期を振り返りましたが、今は父親をインスピレーション源として進めています。舞台俳優である父親の舞台を幼少期から観ていたので、ファッションのもつコスチューム性と、父親の普段着（90s のストリートウェアから影響を受けたもの）の二面性に着目しました。

コスチュームについて考え資料を集めていると、日本のアニメにも繋がる、八百万の神が信仰対象で、あらゆる自然物に神が宿ると考えられている神道の考え方に辿り着きました。自分のクリエイションと密接な考え方なので、日本の妖怪からアニメマンガなどのポップカルチャーの研究を始めました。現在は、着ぐるみのようなコスチューム性のある日本のポップカルチャーと自身が父親から影響を受けたストリートウェアの融合を考えて作業を進めています。







今月を振り返って

今月は大きなプロジェクトが終わりましたが、結果がイマイチでとても悔しい想いと共に自信喪失との闘いの日々でした。上手くいかないことばかりですが、その分今までにない厳しいレベルの環境だと感じているので自身の成長に繋がっていると思っています。これからの制作は個人のものなので、もっと楽しんで伸び伸びと後悔のないように自身の力を発揮できたらと思っています。

以上、4月分のレポートとさせていただきます。